

作業科学セミナー 20年の振り返り

ボンジェ・ペイター

作業科学研究編集部

機関誌「作業科学研究」は、日本作業科学研究会の設立なしに存在していないだろう。また、作業科学セミナー(以下、OSセミナー)の諸講演に基づいた論文、及びシンポジウム・ワークショップ・演題の諸発表の抄録は、「作業科学研究」に不可欠な一部となっている。したがって、「作業科学研究」の10周年の記念にはOSセミナーの20年の振り返りなしでは語れない。本文の目的は、これまで行われた20回OSセミナーに関する情報のリソースを提供することである。また、日本で作業科学の導入と普及のための見識を提案することを目的とする。最後に、第1回から第20回までのOSセミナーの史実的記録は、将来の作業科学と作業科学的な研究の進展の参考になるだろう。

第1回OSセミナーは、1995年に作業科学を導入した目的で開催された。3年後に開催された第2回OSセミナー以来、OSセミナーは毎年開催されていた。当初のOSセミナーは、新しく設立された札幌医科大学大学院作業療法学分野大学院課程の一部として(故)佐藤剛先生によって準備された。ただし、佐藤剛先生の衝撃的な早死の後に、常時参加していた者が日本への作業科学の振興を促進し、OSセミナーに参加する人々をより多くするために、OSセミナーを全国で開催すべきであると決定した(参考:表1)。第8回から現在までOSセミナーは日本各地で開催された。しかし、未だに日本海側、福島を除く東北地方、四国で

は開催されていない。

参加者は札幌医科大学時代のOSセミナーの最大約50名から、現在は約200~250名まで増加した。初めて演題発表が行われた第5回OSセミナーでは、5演題であったが、その後は約15演題まで徐々に増加した(参考:表1)。佐藤先生が(2002, pi)指示した通りに、第4回までは作業の科学的、学問的発展に向けての研究理念・分野及び研究法についての講義を中心として進められた。第5回からは作業科学関連研究者の発表や講演に重点をおき、さらなる発展に向けて船出することとなったと言えるだろう。

次は、諸講演、シンポジウム、ワークショップの内容からOSセミナーを検討する(参考:表2-3)。まず、OSセミナーの諸講演とその他のプレゼンテーションでは、OSが公正なインクルーシブ社会、人間の発達、健康・幸福と作業の関係性を理解したり促進したりしようとする学問であること、作業療法の実践に密接な関係があることを反映している。第2に、科学的議論に不可欠な国際的な文脈であるため、各OSセミナーでは、1つ以上海外の学者のプレゼンテーションを提供している。第3に、各OSセミナーは、作業科学が複数の科学分野から構築されていることを反映したり、枠にとらわれない考え方を促進したり、それらを刺激するため、革新的な視点をもつ作業療法士以外・作業科学者以外から一人以上のプレゼンテーションを提供している。最後に、第11回OSセミナーから設定されたテーマ、

表1. OSセミナー:開催概要

| | 開催地 | 開催年月日 | 世話人代表 | 主な内容 | 演題の数 | 参加者の数 |
|------|-----|--------------------|----------|-------------------------------------|------|----------|
| 第1回 | 札幌市 | 1995年12月13-15日 | 佐藤剛 | 作業科学の紹介 | 該当なし | 不明 |
| 第2回 | 札幌市 | 1998年7月19-21日 | 佐藤剛 | 日本作業療法のための作業科学の開発 | 該当なし | 約25名 |
| 第3回 | 札幌市 | 1999年7月17-19日 | 佐藤剛 | 作業:作業科学と作業療法の芯 | 該当なし | 約40名 |
| 第4回 | 札幌市 | 2000年7月20-22日 | 佐藤剛 | 健康の作業的な視点 | 該当なし | 約47名 |
| 第5回 | 札幌市 | 2001年7月20-21日 | 佐藤剛 | USCにおける動向と日本の将来展望, 医療人類学の立場からみた作業科学 | 8 | 46名 |
| 第6回 | 札幌市 | 2002年7月26-28日 | 佐藤剛 | 人類学と作業科学, 国試的作業科学 | 7 | 約47名 |
| 第7回 | 札幌市 | 2003年8月22-24日 | 青山宏 | 日本と国際的作業科学の展望 | 5 | 約37名 |
| | 開催地 | 開催年月日 | 実行委員長 | テーマ | | |
| 第8回 | 三原市 | 2004年11月19, 20日 | 吉川ひろみ | 該当なし | 6 | 約80名 |
| 第9回 | 浜松市 | 2005年12月3, 4日 | 宮前珠子 | 該当なし | 5 | 103名 |
| 第10回 | 茨木市 | 2006年12月2, 3日 | ボンジェペイター | 作業と可能性 | 8 | 約150名 |
| 第11回 | 倉敷市 | 2007年12月1, 2日 | 港 美雪 | “作業”を世の中へ 作業を捉え、深め、生かし、見えるものへ | 11 | 約160名 |
| 第12回 | 東京都 | 2008年11月22, 23日 | 西野歩 | 作業を考える第一歩 | 11 | 334名 |
| 第13回 | 福岡市 | 2009年11月22, 23日 | 村井真由美 | 作業科学の和と話と輪 ~作業がつなぐ人・明日・可能性~ | 9 | 236名 |
| 第14回 | 那覇市 | 2010年12月11, 12日 | 村上典子 | 結~ゆい~ ~作業の花を吹かせましょう~ | 6 | 約240名 |
| 第15回 | 三原市 | 2011年9月24, 25日 | 吉川ひろみ | 作業科学と社会 | 7 | 183名 |
| 第16回 | 札幌市 | 2012年7月15, 16日 | 坂上真里 | 作業科学からの架け橋 ~作業療法へ, 学際領域へ, そして未来へ~ | 14 | 202名 |
| 第17回 | 郡山市 | 2013年11月30日, 12月1日 | 齋藤佑樹 | 作業科学からのメッセージ | 11 | 245名 |
| 第18回 | 宇部市 | 2014年11月15, 16日 | 渡辺慎介 | 作業科学とリーダーシップ | 15 | 約180名 |
| 第19回 | 浜松市 | 2015年11月28, 29日 | 小田原悦子 | Transition:人々の生活・人生における移行と作業 | 12 | 214名 |
| 第20回 | 東海市 | 2016年12月3-4日 | 堀部恭代 | 社会の課題を作業のレンズで捉える | 16 | 230名(メド) |

諸講演や諸プレゼンテーションのタイトルは、作業科学の導入と開発から、公正なインクルーシブ社会や作業療法における作業の力、及び作業と人間の健康・幸福の関係性など、実質的な課題への変更にまで広がり、OSセミナー

が変わり続けていることを示唆している。よって、これは成熟した学問分野に発展している作業科学の現状を反映しているといえるだろう。

表2. 各OSセミナーの講演者、講演のタイトルなど

| | ファシリテーター | 主な内容 | 講演の種類 |
|------|--------------------------|--|----------|
| 第1回 | Florence Clark | 作業科学の紹介 | |
| 第2回 | Ruth Zemke | 日本作業療法のための作業科学の開発 | |
| 第3回 | Florence Clark | 作業: 作業科学と作業療法の芯 | |
| 第4回 | Ann Wilcock & Ruth Zemke | 健康の作業的な視点 | |
| | 講演者 | タイトル | |
| 第5回 | Ruth Zemke | USCにおける作業科学研究の動向と日本における作業科学研究の将来展望 | 講演 |
| | 波平恵美子 | 医療人類学の立場からみた作業科学への提言—質的研究をめぐって— | 特別講演 |
| 第6回 | Ruth Zemke | 国際的な作業科学 | 講演 |
| | 松岡悦子 | 文化人類学と作業科学 | 講演 |
| | 道信良子 | 医療人類学と作業科学 | 講演 |
| 第7回 | Ruth Zemke | 国際的な作業科学の開発 | 特別講演 |
| 第8回 | Ruth Zemke | 時間と場所と作業 | 佐藤剛記念講演 |
| | 山田孝 | 日本作業行動研究会が作業療法に与えている影響 | 講演 |
| | 岡本珠代 | インフォームド・コンセントと作業療法 | 講演 |
| | ピーター・ハウエル他 | 国際的ネットワーク構築における翻訳の問題—翻訳についての一般的な三つの指摘— | 講演 |
| 第9回 | 吉川ひろみ | 作業とは、何で(form), 何の役に立ち(function), とどのような意味があるのか(meaning)? | 佐藤剛記念講演 |
| | Ruth Zemke | 作業科学の過去, 現在, 未来 | 基調講演 |
| | 鷺田孝保 | 作業療法のナラティブとドラマ性 | 特別講演 |
| 第10回 | 小田原悦子 | 佐藤先生とともに出発した日本の作業科学: 将来に向かって我々はどう引き継ぐか? | 佐藤剛記念講演 |
| | 近藤知子 | 作業科学とは何か | 教育講演 |
| 第11回 | 宮前珠子 | 作業科学の系譜と今後の発展 | 佐藤剛記念講演 |
| | Alison Wicks | メインストリームへ: 作業科学を見えるようにすること | 招待講演 |
| | 中谷文美 | 仕事もみえない仕事〜仕事への文化人類学的アプローチ〜 | テーマ講演 |
| | 浅羽エリック | ナラティブを通しての作業の探究 | テーマ講演 |
| | Ruth Zemke | 健康高齢者研究は続く | テーマ講演 |
| 第12回 | 中村春基 | 作業を行っている患者さまは元気—そのためには、作業療法士は何をすべきか— | 佐藤剛記念講演 |
| | Staffan Josephsson | Astridと桜の木: 作業がもつ変化を起こす力(transformative)についての考察 | 特別講演 |
| | 齋藤さわ子 | 生活や健康を作業科学の視点で考えてみる | 教育講演 |
| | 岡本珠代 | なぜ私たちはクライアントに説明するのか | 特別講演 |
| | 西野歩 | 作業を考える第一歩 | 総括 |
| 第13回 | 港美雪 | どのように働くことが健康を促進するのか—作業に関する社会的問題解決に向けた提案と実践— | 佐藤剛記念講演 |
| | Jin-Ling Lo | 作業科学のプロモーション | 特別講演 |
| | 松谷久徳, 福田久徳 | はじめての作業科学〜初心者向けへ〜 | 教育講演 |
| 第14回 | 村井真由美 | 作業の知識を活かすこと, 産み出すこと〜1人の作業療法士の経験から〜 | 佐藤剛記念講演 |
| | Clare Hocking | 作業科学における現状と未来 | 招待講演 |
| | 津波高志 | 文化を捉える視点—沖繩・済州島の事例を中心に— | 特別講演 |
| | 高木雅之 | 作業に焦点をあてた地域プログラムと教育の実現に向けて | 研修伝達講演 |
| | 吉川ひろみ | 私の作業科学 | 教育講演 |
| 第15回 | 近藤敏 | 我, 作業する, ゆえに我あり | 佐藤剛記念講演 |
| | Gail Whiteford | 作業と参加とソーシャルインクルージョン | 基調講演 |
| | 岡本三夫 | 平和学—その成立と展望 | 特別講演 |
| | 高木雅之, つくろう三原のメンバー | 自分と社会のためにできること | 市民公開講座 |
| 第16回 | 近藤知子 | 作業がつなぐ過去・現在・未来: 障害を超えて生きるということ | 佐藤剛記念講演 |
| | Doris Pierce | 作業科学の構築 | 基調講演 |
| | 道信良子 | ヘルス・エスノグラフィ | 特別講演 |
| 第17回 | 齋藤さわ子 | 作業を通して人を理解すること | 佐藤剛記念講演 |
| | Helen J Polatajko | 作業の理解: 作業療法に不可欠なこと | 基調講演 |
| | 木田佳和 | 災害から現在, そして未来へ—作業的存在としての姿を取り戻すための支援— | 特別講演 |
| 第18回 | 坂上真理 | 作業科学における場所の再考: トランザクションの視点から | 佐藤剛記念講演 |
| | John A. White, Jr | リーダーシップという作業: 作業科学と作業療法にとっての契機 | 基調講演 |
| | 坂本俊久 | 住まい手の心と身体のための住まいづくり | 特別講演 |
| | 高木雅之 | 作業的に豊かな環境を作る | 教育講演 |
| 第19回 | 浅羽エリック | Transition: 移住, 教育, 就労を通しての考察 | 佐藤剛記念講演 |
| | Jeanne Jackson | 高齢期に意味のある存在を生きる | 基調講演 |
| 第20回 | 酒井ひとみ | 生きているシステム「複雑系」としての作業—作業を受け止める前提— | 佐藤剛記念講演 |
| | Elizabeth Townsend | 作業のレンズを通して見る社会の課題 | 基調講演 |
| | 倉持香苗 | 人の交わりから生まれる地域づくり—コミュニティカフェの視点から— | 特別講演 |
| | 吉川ひろみ | 日本の作業科学の歴史と私の作業 | 20周年記念講演 |

表3. OSセミナーのシンポジウムやワークショップなど

| | ファシリテーター | 主な内容 | イベントの形式 |
|------|---|--|--|
| 第1回 | Florence Clark | 作業科学の紹介 | ワークショップなど |
| 第2回 | Ruth Zemke | 日本作業療法のための作業科学の開発 | ワークショップなど |
| 第3回 | Florence Clark | 作業: 作業科学と作業療法の芯 | ワークショップなど |
| 第4回 | Ann Wilcock & Ruth Zemke 発表者 | 健康の作業的な視点 タイトル | ワークショップなど イベントの形式 |
| 第5回 | Michael Iwama, 山田孝, 佐藤剛 | 日本における作業科学研究の方向性と課題 | テーマ演題 |
| 第6回 | 札幌医大の作業科学分野院生 宮前珠子, 吉川ひろみ, 齋藤さわ子 | 作業科学の概要 WFOT学会報告と討論: 世界の動向と作業科学 | 作業科学入門セミナー シンポジウム |
| 第7回 | 若井亜矢子, 向井聖子, 坂上真理, 齋藤さわ子, 港美雪, 村井真由美 坂上真理, 吉川ひろみ, ボンジェベーター, 港美雪, 近藤知子 宮前珠子, 小田原悦子, Ruth Zemke | 作業科学の概要 日本における作業科学の歩みー故佐藤剛教授の足跡を踏まえてー 日本における作業科学の展望 | 作業科学入門セミナー パネルディスカッション パネルディスカッション |
| 第8回 | 原田千佳子, 村井真由美, 近藤知子 | 作業科学が作業療法へ与える影響 | シンポジウム |
| 第9回 | 里見のぞみ 小林法一, 近藤敏, 齋藤さわ子, ボンジェベーター | 身体表現をするということ: 身体表現ー作業療法ー作業科学 作業科学が作業療法に与える影響 | ワークショップ シンポジウム |
| 第10回 | 浅羽エリック, ボンジェベーター, 古山千佳子他 Ruth Zemke, 吉川ひろみ, 飯田英晴 宮前珠子他 | 作業と可能性 教育と科学: 作業の可能性の探究 日本作業科学研究会 | ワークショップ ミニシンポジウム 設立総会 |
| 第11回 | 岡千晴, 港美雪, 難波悦子 | 作業科学を目標設定に生かすということー作業を捉え、深め、生かし、見えるものへー | ワークショップ |
| 第12回 | | | |
| 第13回 | Moses N Ikiugu, 他 花山友隆, 上江洲聖, 近藤昭彦, 浅羽エリック, Jing-Ling Lo 畑間英一, 葉山靖明 | 自然環境と作業科学 作業科学のネットワーク構築ー小さな勉強会から世界的組織までー 作業と私ー私が私であるためにー | パネルディスカッション シンポジウム ワークショップ |
| 第14回 | | | |
| 第15回 | Gail Whiteford 福田久徳 | 東日本震災基金講演 テーマ別小グループディスカッション | 基金講演 ワークショップ |
| 第16回 | Ruth Zemke 小田原悦子 | 日本における作業療法のための作業科学の将来 日常生活における作業的存在の写真: 身近な作業を理解するため | シンポジウム ワークショップ |
| 第17回 | 第17回作業科学セミナー実行委員 | 作業を捉え方を考える | ワークショップ |
| 第18回 | 吉川ひろみ, 長谷川利夫, 宮崎宏興, 港美雪 池尻奈美, 第18回作業科学セミナー実行委員 | 病棟転換問題を考える リーダーシップという作業を考える | 特別セミナー ワークショップ |
| 第19回 | Mark J Hudson, Kyle Matias, 濱畑章子 西方浩一 | Transition: 人々の生活・人生における移行と作業 作業的写真 | シンポジウム ワークショップ |
| 第20回 | 堀部恭代, 倉田香苗 | 社会の課題を作業のレンズで捉える | ワークショップ |

結論として、OS セミナーでは、日本で作業科学研究者として成長してきた方々が、自分の研究に関して講演や演題、シンポジウム発表などを通して研究報告することだけでなく、作業科学の国際的及び学際的な発展を促すための議論も行っており、作業科学の更なる発展が期待される。

引用文献

佐藤剛 (2002). 作業科学セミナー講義録 1995-2000 Occupational Science Seminar. 札幌医科大学大学院保健医療学研究科作業療法学分野, i.